道守 みちもり

MICHIMORI TSUSHIN

通信

vol.39 秋号

令和２年７月豪雨

〝惨状〟からの復旧、着々

巻頭インタビュー

災害、コロナ―「禍転じて福としよう」自転車で「新しい発見」「地域づくり」を

沓掛 敏夫（九州地方整備局 道路部長）

「絆」を強く、乗り越えよう ―コロナ後の道守活動―

樗木 武（道守九州会議代表世話人）

みちづくしin北九州2020

コロナ禍「密」をさけ、来年（2021年）秋に延期

令和2年7月 豪雨

7月3日から降り始めた大雨は、九州各地に甚大な被害をもたらした。九州管内の道路においては、国道3号や210号を含む、約370箇所で通行止めが発生。

八代市から人吉市間の国道219号は、球磨川に架かる橋梁が10橋流失。被災地方公共団体より、国による早期復旧の要望があり、国道219号や熊本県道等の約100㎞の災害復旧事業を国が代行することが決定された。

7月21日から、TEC－FORCE（緊急災害対策派遣隊）による国道219号の啓開、西瀬橋の仮橋復旧作業に着手。8月11日には八代市内から人吉市までの緊急車両等の通行が可能となった。

9月4日には、流出した西瀬橋の仮橋仮設が完了し、通学路など生活道路としての機能が確保された。

道守ボランティア、現地へ

人吉市下新町ボランティア作業、家財道具の運び出し（NPO法人自然を愛する会）

球磨村木下製粉場の水路の泥、砂利、石などを出す（NPO法人自然を愛する会）

JR肥薩線（坂本町）：橋梁の被災

〝惨状〟からの復旧、着々

①人吉市街部（上青井町）：浸水
②主要地方道 人吉水俣線（人吉市）：西瀬橋　橋梁の流出
③国道219号（球磨村）：道路の崩壊
④球磨村渡大字地下地区：浸水（提供：球磨村）
⑤国道219号（坂本町）：被災
⑥一般県道 小鶴原女木線（坂本町）：深水橋　橋梁の流出

道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りは、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろう。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渇きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、新しい道に一歩踏み出そう。

ノーフォーク広場（北九州市門司区）

CONTENTS

01 令和２年７月豪雨
〝惨状〟からの復旧、着々

02 巻頭インタビュー
災害、コロナ―「禍転じて福としよう」
自転車で「新しい発見」「地域づくり」を
杏掛 敏夫（九州地方整備局 道路部長）

04 「絆」を強く、乗り越えよう ―コロナ後の道守活動―
樗木 武（道守九州会議代表世話人）

06 私たちの道守活動

14 みちづくし in 北九州2020
コロナ禍「密」をさけ、来年（2021年）秋に延期

15 わたしの好きな道
笑顔をつくる大島大橋の道 ～長崎・県道52号～
谷口 雅樹

16 海外道事情 スペイン
ビルバオ市の都市改造―製鉄のまちから文化のまちへ―
樗木 武

17 道守人物伝・横顔・道守たちのトピックス・編集後記

表紙画：久冨 正美
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭インタビュー

九州地方整備局　道路部長

沓掛敏夫（くつかけとしお）氏

災害、自転車で「新しい発見」「地域づくり」を

自転車で「新しい発見」「地域づくり」を

災害、コロナ―「禍転じて福としよう」

――新型コロナの影響で、今年11月に予定していました「みちづくしin北九州」が1年延期となりました。みちづくしは、身近な生活の道を中心に、コツコツと清掃活動をしている道守さんが年に一回、一堂に会して体験を語り合い、互いに励まし合う場です。

北橋北九州市長と共に私ども北九州市道路サポーターをはじめみなさんのご協力で一所懸命準備に取り組んできたのですが残念です。来年は是非またこのみちづくしが北九州で盛大にできるように私どもも励ましあって頑張っていきたいなと思っています。

沓掛部長　私は九州での勤務が今回初めてですが、道守の活動は以前より知っています。本当に素晴らしい取り組みだと思います。

中でもこのみちづくしは、熱意をもって道の清掃や花壇の管理などをして頂いている大勢の皆さんが集まり、様々な知識を共有し、経験を分かち合う、感動するような場だという話を伺ってきました。

今回、残念ながら皆さんが一同に集まって時間と空間を共有し、一つの大きな目標に向かっていく場が延期となりましたが「禍を転じて福と為す」と考え、少しでも前向きな捉え方をして頂けたらなと思います。

――大分でも5年前から3つの輪（道の駅・風景街道の三者連携）という活動でシンポジウムを行っています。しかし、3月にコロナ、7月に豪雨災害で、2度も延期となりました。皆さん声を揃えて人に会えない寂しさや活動ができないもどかしさを感じ、これを機に違うやり方でやろうと考えている方もいます。そこで九州各県の皆さんにエールを頂ければと思います。

沓掛部長　皆さんのように、色々な思いを持って熱心に活動されている方々が思いを共鳴しあうことは、なかなかオンラインでは難しいと思います。顔を合わせ、同じ空間と時間を共有することがとても大事だと思います。

そのうえで、コロナ禍の中で、今まで通りはできなくても、規模を変えたりしながらフェイストゥフェイスのやり方で皆さんの思いを共有することが大事かと。延期は正しい選択だとは思うのですが、これからは多様な選択肢を考えながら実践していくことが大事になると思っています。

――道守が16年目を迎え、5万7069人、555団体の道守さん達が活動しています。この16年活動してきたということと、これから20年に向けて高齢になってきた皆さんと若い人たちがお互い交流するのも、課題と思います。オンラインの活用も新しい生活スタイルなのかなと感じます。

沓掛部長　16年間続けられてくる中では、色々と大変なこともあったと思います。これだけの取り組みを皆さんが協働しながら、また自主的に取り組まれていることには、本当に頭が下がる思いです。我々も協働しながら課題を乗り越えていきたいと思っています。

――平成、令和と、災害続きで、道路が寸断されて、国交省の皆さんも道路啓開や災害復旧と様々な苦労をなさっていますが、道守の皆さんも自分の親しんだ道がこんな惨憺たる状況になったことでなんとなく元気がなくなってしまっています。

人吉、それから八代市坂本町、球磨村の被災地に災害ボランティアが、県外からは入れないという状況にある中で、道守くまもと会議の阿南さんたちが人吉に、岡田さんのグループが八代市坂本町に入られてボランティア活動をされています。道守のネットワーク、つながりの中で復旧をお手伝いしています。

沓掛部長　球磨川流域では、7月3日から4日にかけての豪雨で観測史上最高水位を記録しました。球磨川沿いの国道219号と市道・村道、両岸で約100㎞の道路が寸断。球磨川本川にかかる橋が10橋、加えて鉄道橋も流されています。この様な被害の直後にもかかわらず、道守の方々がボランティアとして被災地に入り、活動されたことは素晴らしいことだと思います。我々も道路の復旧をできるだけ早くしなければ、その後の活動もままならないということで、国が権限代行で復旧に当たることになりました。これまでは権限代行のためには道路によって条件があり、市町村道などは特定大規模災害に指定されないと国が代行できなかったのですが、今年5月に道路法が改正されて、指定なしで災害復旧を国が権限代行できるようになりました。その適用第1号が今回の災害で、7月22日に権限代行が決まりまして、八代から人吉まで出来るだけ早く一気通貫で通行できるようにしようと考え、8月11日にその啓開が完了しました。これにより緊急車両や工事用車両の通行が可能となり復旧の第一歩を踏み出したところです。

人吉市　西瀬橋　仮橋設置工事（8月21日）

橋梁については一番上流の西瀬橋から取りかかりました。この西瀬橋は中央部の上部工が流出してしまいましたが、九州地方整備局の技術事務所が保有している仮橋を持ってきて9月4日には一般の車両が通行できるようになったところです。これにより近くの小学校の生徒さん6割が通学路として通えるようになりました。

今回流出した10橋をよく見ると7橋がトラス橋もしくはアーチ橋でした。例えば深見橋はアーチの部分だけ流されており、恐らく木が引っかかることで水圧をまともに受けたと考えられます。今回は非常に流量が多く、受ける水圧も強かったと思われます。相良橋は昭和9年に架けられた橋で、これまで幾度も災害にあっても耐えてきたんです。球磨川第二鉄道橋はニューヨークでつくられて、明治41年に架けられたトラス橋ですが、それも流されています。災害前はJR肥薩線で現役で使われており、観光用のSLも走っていたくらいですから相当な加重に耐えられていたと思います。

その橋が流されたのですから、今回の災害がいかに凄かったかっていうことです。

――道の駅と道守と風景街道の三者ネットワークでは、熊本地震の時も道の駅が救援基地になったり、自衛隊の皆さんの基地になったり、道の駅が迂回の道案内をしたりしたんです。

自動車専用道路と旧道とのネットワーク化、結節の在り方を伺えませんか。

沓掛部長　ダブルネットワークをつくるということは、元々の道路に課題がある、あるいは地域を強化する等の目標があるからこそ別にルートをつくるのであり、役割分担が大事だと思っています。通過交通は新しい規格の高い道路を通ってもらえばいいのですが、もっと地域を楽しみたい方はできるだけ現道を走ってもらうような組み合わせも重要と思います。

自動車専用道路から下りてもらって、地域を楽しむという意味で、風景街道や道の駅を地域での拠点にしながら人に来てもらうということがすごく大事だと思います。欧米では、幹線道路から下りたその道路の方がまた楽しい。色んな賑わいがある。地域の皆さんの色々な熱意と自由な発意で盛り上げていくというのが大事ですし、それをまた行政の方も支えながら地域をつくっていくのが、まさに協働なのかなと思っています。

特に道の駅は、今防災拠点という役割も担ってきていますが、元々自由な発想で色んな事が出来るのが非常に魅力で、ここに地域の皆さんの色んな楽しみを見つけて活躍しています。場所によってはバス停とか役所の機能とかを合わせて重点化させたり、平成29年には全国で13箇所で自動運転の実証実験など、色んな取り組みをしながら、通過交通ではない交通を楽しんでもらえる地域づくりを我々も目指していきたいと思います。

――風景街道「別府湾岸・国東半島海べの道」は3年前からサイクリングに力を入れています。大分からは瀬戸内海を見渡せ、フェリー文化があるので、九州からフェリーで四国に渡り、愛媛～広島～山口～福岡～大分の5県を跨ぐ周遊ルートを考えています。幹線道路が出来ると自転車乗りにとって、生活道路は走行車が減るので車に邪魔されず、寄り道しながら、三密を避け自由に回れる利点がある。風景を見るだけではなく地域資源の価値を改めて知るwithコロナ時代に合った新しいコンテンツを考えています。

沓掛部長　自転車の良いところはちょっと立ち寄って観光することが出来るところです。車だと駐車場が必要なため、つい通過してしまいがちですが、自転車観光という視点を今まで以上に取り入れることで、これまでにない事例を是非九州でつくっていけたらと思います。

実は私も自転車好きで10年以上自転車通勤しています。自転車で外に出れば、たとえコロナ禍であっても、季節の花は咲いて鳥が鳴き、自然はいつもの通りだなと気づくことで気持ちが洗われる気がします。そういう特性も生かした地域づくりを是非やっていきたいなと思います。

話は変わりますが私は自転車通勤している中で過去2回、転倒したことがあります。いずれも道路に捨てられた空き缶にタイヤをとられて転倒したのですが、特に2回目は雨が降った直後ということもあり、凄い勢いで転倒しけがをしてしまいました。そのとき、皆さんの清掃活動は景観や道路美化だけではなく、安全にも大きく寄与しているのだなと実感しました。本当にありがたく思っています。

――整備局としては美しい道づくりというのは、道路の電柱地中化とかがあげられると思います。美しい道づくりについて、今後どのような展開や施策がありますか。

沓掛部長　電線の地中化を一所懸命進めています。もちろん良好な景観をつくることと合わせて、快適性の確保や災害時の通行確保のためにも重要なことと考えています。今回の豪雨災害後に現地入りした際、電柱が一本倒れているだけでこれほど通行の障害になるのかと、改めて認識させられました。

美しい道づくりといえば、自転車に乗ると綺麗にされた歩道や道路に気付くことが多くあります。いつも綺麗に花が植えてあったり、手入れされていたりすると、道が綺麗なだけではなく、その地域の品格をも醸し出す様な気がします。皆さんと協働しながら道路を、さらには街並も含めて綺麗にしていきたいと思っています。

――私たち道守は、自分の住んでいる地域の中で道をきれいにすることが安心・安全を守ることになり、歩行者のことも考え、安全なまちづくりや道づくりに取り組みながら活動しています。

「みちづくしin北九州」は来年の10月下旬に予定していますが、北九州市は道路サポーターという組織があって、1万3000人のサポーターが、行政と一所懸命連携して成果をあげています。来年のみちづくしは「行政と道守の連携」というテーマで分科会をしようと思っています。また、北九州市が本州と九州をつなぐ大動脈を背負ってきた様々な歴史について現地を歩いて道の勉強をしようと予定しています。

「みちづくしin北九州」にお出かけしていただければ大変励みになりますし、皆さんのお力になるかと思っております。

沓掛部長　是非とも、行かせていただきます。ありがとうございます。

●インタビュアー

道守大分会議　事務局長
木ノ下結理さん（右）

北九州市道路サポーターの会 会長
渡邉　清子さん（左）

沓掛　敏夫（くつかけ・としお）

■プロフィール

昭和42年3月生、石川県出身
平成3年京都大学工学部　土木工学科卒業後建設省入省。中部地方整備局　岐阜国道事務所長、道路局　企画課道路経済調査室長、首都高速道路株式会社　計画・環境部長歴任後、令和2年6月より現職。

「絆」を強く、乗り越えよう

―コロナ後の 道守活動―

道守九州会議代表世話人　樗木　武

梅雨末期、熊本など九州全域が記録的豪雨にみまわれた。コロナ禍の最中、河川の異常な氾濫、土砂災害の発生で、道守の皆さんの無事を祈り、度重なる苦難に思いをはせ、心配もした。皆さんとともに乗り越えたいとの強い思いから、災難、災害の両者に立ち向かう意味を込めつつ新型コロナ後の地方再生と道守活動を考えてみたい。

ちしゃき・たけし
道守九州会議代表世話人。九州風景街道推進会議。九州大学名誉教授。マスター都市プランナー。

道守活動も大いなる苦難

昨年暮れ、新型コロナウイルスの感染が武漢で始まり、瞬く間に全世界へ。わが国も、本年1月に最初の感染者が確認され、以来7か月が経過する。この間、三万四千人超の感染者、約千人の死者で、なおも感染速報に脅える日々です。

九州7県は、二千四百人の感染者、40人の死者だが、第一波で終わらず、第二波も懸念されます。ワクチン、治療薬は開発の途次で、社会、経済、文化活動の先送りや中止が相つぎ、皆さんの道守活動も大変な苦難が強いられていると察します。

コロナ禍の対策として、4月中旬に全国緊急事態宣言があり、5月下旬に解除されました。コロナ対応の検査・医療体制やワクチン・治療薬の開発の先が見える報道もあります。宣言解除後の社会、経済活動やイベントの再開から、ポスト・コロナ時代に、どんな地域再生や道の姿があり、道守活動の再開をどうするかが問われつつあると考えます。

災難を乗り越え地方再生を目指せ

人々が作り上げた社会をごく単純なモデルで表わせば次の通りです。自然、まち、施設、設備などを括る「**空間**」と、人々の「**活動**」、それらのための「**制度**」から成り、互いが一つにつながっています。その中で、災害は、空間が部分的に被害を受けて社会の一部が損壊することです。必要な制度や活動に配慮しつつ、壊れた空間をどう修復し、再興するかが問われるものです。

これに対し、新型コロナウイルスの感染拡大は、現代に生きる我々にとり、主に次の3点を突きつけた災難です。

1、境界なく世界規模で、長期にコロナ禍が及んだ。

人の交流活動が世界規模で広がっている現代社会の状況を物語り、一度発生すれば、瞬く間に地域、季節を問わない長期に及ぶ災難です。

2、社会通念を覆す対応にすべての人が脅かされた。

不意の災難で、備えが不十分なため、医療崩壊を避け、重症度に応じた治療が求められた。暮らしや生活、場合によっては家族等の絆さえ犠牲となり、感染・非感染に関わらず人すべてが脅かされた。

3、社会・経済・文化等の活動全般に影響があった。

人と人の接触を遠ざけ、社会や文明を否定するかのように影響があり、事務所や店などの活動が抑制され、多くの社会活動やイベントが休止に追込まれました。

人吉市の被災地支援に入ったNPO法人自然を愛する会のボランティア支援隊のメンバー

再スタートに二つのパターン

コロナ禍の「空間」は被災後もそのままであるから、人の活動そのものの抑制に代わり、テレワークの推進や通販、移動販売の普及、オンライン会議や営業、授業、デジタル行政などの**スマート活動形態**の工夫が推進された。各国・各地域が総力をあげてコロナ禍克服の対策をとりながらも、人々の活動をどのように維持し、再起させるかに立ち向かっています。

ポスト・コロナ時代に向けた活動の再スタートに2つのパターンが予想されます。

パターン1は、残った空間や制度をそのままリセットし、オリンピック・パラリンピックなどのビッグイベントの開催をテコにするなど、諸活動をコロナ禍以前に戻し再スタートし、経済活動の手早い復活を図ることです。

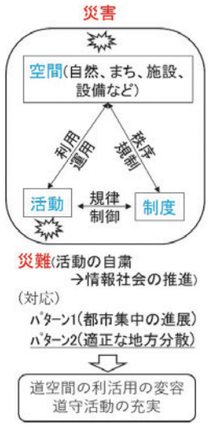
パターン2は、新コロナの渦中で試みられたスマート活動を貴重な社会実験として生かし、その推進で地方の活動強化に一層力を入れ、災難に耐える社会および国土全体の強靭化を図ることです。

分散型社会が垣間見えた

緊急事態宣言解除後、通勤通学の速やかな回復、諸施設などの再開努力、諸行事の実施意欲が見てとれます。また、首都などの三大都市の活動ポテンシャルは地方に比べ大きい。これらから、パターン1が進むことも十分に考えられますが、その場合、首都など大都市への集中が一層進むでしょう。しかし、カギを握る東京五輪開催の有無は必ずしも明らかでなく、地方の一層の疲弊は避けられないなどがあります。

他方、「人、もの、情報」の全てが首都など大都市に集中していたことが、3密を避けなければならないコロナ禍を深刻にしたとみなせます。また、コロナ禍での市民、企業などの行動から、スマート活動の導入により、企業活動も都市にこだわる必要がないなどが確認できました。首都集中などの是正の可能性、分散型社会の姿が垣間見えたともいえます。

過去のサテライトオフィスやテレポート、リゾートなどの類する試みをみると、パターン2もその浸透が一部の都市などにとどまり、高齢社会、人口減に苦しむ地方に広く及ばない懸念があります。今こそ災難、災害に耐える地方の自立と頑張りを期待するところです。



道利用の変容、コロナ後の道守を

道は、「人、もの、情報」の移動・伝達の社会基盤ですが、コロナ禍において様々な変化がみられました。

●**インバウンド観光などの劇的減少**―昨年、入管法改正やビジットジャパンキャンペーンがあり、外国人の受け入れや観光客の入り込みに成果を挙げつつあった。世界的なコロナ禍の拡大で、インバウンド観光が落ち込み、影響は地方ほど大きく、長期に及ぶと推測されます。

●**人の移動の情報通信への転換**―テレワークの推進、通販の拡大、行政窓口のインターネット化、遠隔医療など、人の日常的移動の相当量が情報の移動（通信）に置き換えられた。

●**ものの配送量の増加**―部分的だが、前述のことの裏返しとして、宅配、郵便など、小単位のものの配送が増えた。

●**身近な私的移動の広まり**―テレワークなどで通勤、業務、加えて長距離旅行などの人の移動は減少したが、それに代わり、移動販売の進展の傍ら、散策やジョギング、健康志向の活動、学習・文化活動、あるいは近距離のレジャーや旅行、家族などと共に楽しむイベントへの参加などが広まった。

加えて、移動手段の技術革新を展望すれば、身障者や高齢者の歩行支援装置、自動運転の車、ドローンなどによる人、ものの移動の革新が進み、移動手段やサービスがまた多様化、AI化すると考えられます。ドローンは、水上、陸上、空中にとらわれない第3の道空間を切り開く可能性があります。

多彩なソフトの道へ

ポスト・コロナ時代も、高齢社会、人口減社会が続く。その中で、地方が望むパターン2を進めることは、行動のスマート化であり、個々の建物などと社会とを結ぶ道空間を移動体が様々に利活用することです。車と公共交通利用が主のハードな道路から、人々が多彩に利活用するソフトな道への転換となり、道を守る活動も、従来からの活動に加えて、維持管理、情報発信、そして災害に関し次のような配慮や充実が求められます。

①道の空間利用の個別的な人移動の小トリップ化が進み、移動手段が徒歩や自転車利用などに加え、宅配ロボット、スマート・バス停、自動運転の車の導入などとなれば、「**きめ細かな道の整備と維持管理**」が必要です。利用者からの道の活用上の要望が増える一方で、移動が少ない地域や道が取り残され、維持管理が難しくなると想定されます。地域住民相互で知恵を出し合い、道を守る活動が望まれることです。

道の利用が個別化し多彩になることは、放置すれば利用が錯綜し、煩雑な情報が増えます。かつて交差点などで個別の広告や標識が立ち並び改善を図ってきた。多彩な道の利用もその制御や注意喚起などで煩雑になり、分かりにくいなどの混乱が起こる恐れがある。汎用的で単純に整理された道の空間となるように、移動手段の秩序の確立と適正な維持に心がけることです。

②道はまた、行先案内、交通規制、安全・安心のために、「**正しい情報発信の基盤**」としての役割がある。このため、必要かつ正確な情報発信が大切だが、最近では、不確かな憶測情報、誇大な宣伝や風評、中には誹謗中傷、デマ・詐欺情報などがあり、しかもそれらとまじめな情報、正しい情報との区別がつきません。このことから、SNSやメディアへの批判や不信を多く聞くようになりました。道の諸情報をいかに正しく伝え、更新するかが重要であり、急激な社会変化の中で信頼できる情報発信のあり方を官民で模索することです。

③いま一つ、コロナ禍と重なれば、災害時の避難や被災後のボランティア支援は、「**地域住民の共助**」が主になることを今回の豪雨災害で実体験できた。避難や支援におけるコロナ感染への対応上の混乱、あるいは支援者の不足などがあり、課題です。基本は道をよく知る地域の人々が主になり、官民挙げての実施体制や役割分担を日頃から磨くことです。

地方の道は最後の砦

ポスト・コロナ時代にあっては、大都市だけでなく地方活用時代の到来が期待されます。地方の道が、人と人を繋ぎ、暮しの基盤をなす最後の砦であり、道守活動の再開は、地域における人々のための道を守る活動となります。道守の絆を絶やすことなく、地域の未来へとつなぐことが大切です。

とはいえ、コロナ禍は終わったわけでない。さらなる深刻化も考えられ、油断できない。当面は、3密を避ける工夫と自己防衛をしっかり行い、単独や小単位のグループで、無理をせず、地域の将来に向けて踏ん張ることです。その上で、コロナ後を見据えた情報や意見を交換し、道守の活動を模索しながら、コロナ禍や大災害を乗り越え、展望を開く必要があります。希望をもって皆で頑張りましょう。

道守くまもと会議

県外からの支援できず、県内の道守が活躍

球磨川が大氾濫。流域の人吉市をはじめ球磨村、坂本村などが濁流にのまれ、大きな被害を出した。コロナ禍で県外からの支援はできず、「自然を愛する会」など県内の道守さんが現地に入った。

NPO法人自然を愛する会（熊本市）

「今なにが出来るのか。」を問い実践する

球磨川を中心とする熊本県南部を襲った大水害、多くの人命を奪い災害をもたらした。7月5日に早速被災地人吉に行く。何より高速道路が通れたのが幸いして被災地人吉に入る。球磨川沿い家屋は泥水の濁流が流れていた。水の恐ろしさを目の当たりにし、自然を愛する会会員や道守メンバーなどに声を掛け7月6日から被災地に入りボランティアとして作業奉仕する。これまで熊本地震や東北地震、広島水害など多くの被災地支援ボランティアとしての経験から、「被災者に寄り添えるのには今なにが出来るのか。」を問い実践する。今回は被災地の家財道具出しから床下の泥水出しなど労働力でのボランティア支援をする。毎日10名から20名ほどで8月10日まで自然を愛する会支援隊は延べ３００名が現地ボランティア作業した。

木下製粉場（球磨村）は１１０年の歴史がある水車を使って製粉する製法で今も現役。

球磨村木下製粉場の水路の泥、砂利、石などを出す

今回の水害で工場内と川水を取り込む水路が埋まって仕事を継続するか悩んでいました。水路50ｍほど幅１ｍ深さ１～２ｍもあり、大正時代に岩をノミで堀って作った水路。製粉場の再興を願って水路の砂利などを掘り出しました。

６日間延べ80名ほどのボランティア支援隊が参加して水車が回りました。感動でした。

被災地の復興と被災者への応援に道守メンバーとして自然を愛する会が少しでもお力になれたら幸いである。

（会長　阿南誠志）

球磨川沿い１階全部泥水に浸かる

球磨村の宮園公民館床下床下泥出。水害被災地に約40日間、延べ300名のボランティア支援隊が作業しました

八代観光物産研究会（八代市）

コロナに負けず歩道清掃

１１０年余多くの人が利用した木造八代駅が昨春現代和風駅舎にリニューアルした。

それを機に広場から続く一帯をおもてなしの空間として活用したいと行政と連携、花いっぱい活動を始めた。植栽周辺草取り、プランターに季節の花植え等汗をかいていたら、通りがかりの人達からお褒めの言葉をかけていただく様になり、うまかもん市やオープンカフェを開催して坂本のぽたもち等大好評だったが、コロナの影響により休止。しかしながらくまモン像も出来て、写真を撮る人も多くなり、花の手入れにも励みとなり楽しみながら続けている。

（岡田敏代）

坂本のぽたもち

オープンカフェ周辺の花植活動

駅周辺を利用する人々でにぎわう八代駅前広場オープンカフェ

道の駅「坂本」（八代市）

復旧、復興の道は果てしなくとも―。

私の生まれ育った、大切な大事なふるさと坂本町が豪雨水害に見舞われ、２か月が過ぎました。坂本町の主要幹線道路である国道２１９号線も痛々しい姿となり、災害から１か月以上すぎた頃に仮復旧を終え、住民も以前のように国道を利用することができるようになりました。坂本の住民にとって国道２１９号線は命の道であり、買い物、ガソリン、病院など生活する上で必要不可欠な場所へ行くため、かなり多くの住民がこの道を利用します。その命の道が通行できるようになったことは、坂本町にとってはとても大きな出来事で、明るいニュースとなりました。災害直後より八代市災害ボランティアセンターをはじめ、民間のボランティア・支援団体も複数、坂本町の被災現場へ入り、自主的に復旧活動や家屋の片付け作業に取り組んでいましたが、そのような団体にとっても復旧作業を後押しする出来事でした。まだまだ坂本町の復旧・復興への道のりは果てしないようにも感じられますが、今回災害によって改めて『道』は地域の重要な財産であることを知らされました。

坂本町でのボランティア作業

坂本桃子（さかもとももこ）

八代市坂本町（旧・坂本村）出身。24歳の時に坂本町へUターンし地元ケーブルテレビに勤めながら、地域づくりの活動を行う。2019年に結婚・出産を機に水俣市へ。現在は子育ての傍ら、ライターとしての活動等を行う。

道守ふくおか会議

コロナ禍でもできることを無理なく続けています。

WEB会議映像

WEB会議の状況（福岡国道）　県央世話人

道守ふくおか会議では年一回各世話人が集まる「世話人会」を開催していますが、今年度は新型コロナ感染拡大防止対策が取れず残念ながら書面開催となりました。そのような中、世話人会の運営について事前に検討する「運営会議」は、感染リスクが少ないＷＥＢ会議を活用して開催しました。こんなコロナ禍でもできることを無理なく続けることを念頭に新しい”集い方”にチャレンジしています。

北九州市道路サポーターの会（北九州市）

門司港レトロで散歩はいかが？

北九州市門司区の門司港レトロ地区一帯で花壇整備に取り組む「門司港レトロ花の会」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に取り組んだうえで花壇の手入れを行っています。具体的には、作業の際にマスク着用、お互いの距離を取るなど工夫しています。

代表の北里さんは「門司港レトロ地区は散歩もしやすいので、ソーシャルディスタンス（思いやりの距離・社会的距離）を確保したうえで、花を楽しんで欲しい」と話しています。

（北九州市道路サポーターの会事務局）

花壇の手入れ、距離を取って

通常の花植え

NPO法人はかた夢松原の会（福岡市）

「三密」回避で、分散花植え

国体道路の花植えは、夏と冬の年２回実施していますが、今年の夏は、コロナウイルス対策で花植えを３日に分けて行いました。例年、６月末か７月初めに実施していますが、梅雨明けが遅かったため、７月19日、22日、26日に気温と湿度が上昇する中、コロナ対策と熱中症対策をしながらの作業でした。学生達の元気なこと！ソーシャルディスタンスを保っての花植えでしたが、道行く人たちからのねぎらいの言葉に、学生や私たちはさわやかな充実した気分を満喫できました。

蒸し暑い中での作業でしたが、みんなのエネルギーを取り込み、色とりどりの花は一段と華やかさを増し、コロナ禍の中、国体道路を歩く人もきっと癒されることでしょう。

冬の花植えの時にはコロナ感染の猛威が収まっていることを願っています。

（理事長　礒谷慶子）

最終日(7/26)の花植えで花壇完成

ソーシャルディスタンスを取って花植え(7/22)

「いただきます」はマスクをつけて

道守おおかわネットワーク（大川市）

できることを「できるしこ」

道守活動の原点に返り、できることを「できるしこ」という気持ちで共同清掃活動を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止として参加受付所の分散や手指消毒の設置、開会セレモニーは行わない等、「密」にならないよう工夫し、参加者の方には、原則マスクの着用や当日の体調等に留意していただいたうえで６５６名の参加により行いました。

（道守おおかわネットワーク事務局）

参加受付所もコロナ対策（下）

▲マスク着用と「密」にならない心掛け

◀アルコール除菌とマスク着用

道守佐賀会議

工夫、対策、準備する１年に

道守佐賀会議の道守の方々は、新型コロナウイルスの影響により思い通りに活動できていないのが現状です。しかし、「来年度以降の活動について考える（工夫する、対策する、準備する）一年にしよう」と前向きに捉える方が多く、力を蓄える一年になるのではないかと思います。そんな中でも、継続的に活動している2団体をご紹介します。

〈道守佐賀会議 事務局〉

唐津土建工業株式会社（唐津市）

しっかりと予防と対策して、美化活動

唐津土建工業株式会社では、地域貢献活動として定期的に現場周辺の環境美化活動を行っています。

新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中、建設現場では毎朝の体調確認、手洗いとうがいの励行、会議や打合せ時のソーシャルディスタンスの確保などにより、感染者並びに濃厚接触者が出ることなく、現在稼働している全ての現場はおおよそ予定通りに進捗しています。第２波とも呼べる感染拡大状況になりつつありますが、しっかりとした予防と対策を講じながら、継続して環境美化活動に取り組んでいきたいと思っています。

（総務部課長　木村剛）

協力業者さんも大勢参加

現場出入口こそきれいに！

髙田電機株式会社（唐津市）

コロナに負けず歩道をクリーンに

私たち、髙田電機では自社活動の一環と地域貢献の協力として清掃活動を行っています。

毎日、社員で班を振分け、当番班で自社前の歩道の清掃に勤しんでいます。

歩道なので、大きなゴミや草などはあまり見かけないようになっています。これも、毎日行っている活動の賜物だと思います。あそこは毎日清掃しているから、ゴミも捨てにくいとか、そういう効果もあるかと思います。月初めには会社周辺での清掃活動として範囲を広げて行っています。地域の方からも声を掛けていただいて私たちの活動が少しでも皆さんのお役に立てればと思います。これからも清掃活動でコロナに立ち向かい、車からのゴミ排出防止とクリーンな道を目指してやり続けていきたいと思います。

（代表取締役　髙田武嗣）

通行する車に気をつけながら実施しています

毎朝、地域の皆さんが気持ちよく通れるように、心を込めてホウキを動かします

道守長崎会議

人と人との距離に気を配りながら

道守長崎会議では長崎県内各地の道守活動を支援しています。

コロナ禍の状況により活動し難い状態ですが、そんな中でも人と人の距離に気を付けるなど一人一人が気を配りながら、元気に活動されている皆さんを紹介します。

小浜温泉57 他（雲仙市）

「道路ふれあい月間」の清掃活動

令和2年8月4日、毎年恒例となっている「道路ふれあい月間」の清掃活動が行われました。

小浜温泉57のメンバーを中心に、地元企業や雲仙市、長崎河川国道事務所も参加し、小浜温泉街周辺のゴミ拾いや除草を行いました。

梅雨明け直後の炎天下での作業となったため、お茶や塩飴を配り熱中症に気を付けつつ、額に玉のような汗を浮かべながらの作業となりました。

（事務局取材）

植栽帯の草取りの様子

猛暑の中活動された皆さん

雲仙市千々石町の花植え活動

7月4日午前、雲仙市千々石町にて花植え活動が行われました。

小浜温泉57の竹馬さんを中心に、地域の自治会の皆さんや地元企業、長崎河川国道事務所の職員が協力し、3箇所の花壇に花植えを実施しました。

朝から雨が降ったり止んだりと不安定な天気でしたが、作業中は雨も止み、かみのだ花壇、ピープル前の花壇、消防団前の3つの花壇にマリーゴールドなどの花を綺麗に植える事ができました。（事務局取材）

自治会の皆さんが集まって花植えをしました

地元の建設業者さんも協力して作業

有明ボカシの会（島原市）

スイカを食べて清掃活動

7月4日の午後、有明ボカシの会の清掃活動が行われました。

約35名の会員が集まるのは久しぶりで、午前中の雨が嘘のように晴れ渡る晴天の中、熱中症とソーシャルディスタンスに気を付けながら行いました。

清掃活動後は会員さんからのスイカの差し入れで水分補給！無農薬のスイカは瑞々しくて甘く、体に染み渡るようなおいしさでした。

また有明ボカシの会では、地域の子ども達と一緒に無農薬野菜を育てる等の食育の活動も行っており、お礼のお手紙がたくさん届いていました。

（事務局取材）

活動後に参加者みんなで記念撮影

スイカで水分補給

子ども達からお礼のお手紙

道守大分会議

心の距離―「会うことに勝るものなし」

コロナ禍の今、人とつながることが少なくなっているからこそ感じたこと。

それは、どんなにオンラインが発達しようとも、心の距離は直接会うことに勝るものはないということでした。

新しい生活様式になっても、大きな災害がきても、道守活動は地域に彩りを与え、美しい景観をつくる大切なコミュニティーです。笑顔で皆さんにまた会えますように！　そして道守20周年に向けて育んでいきましょう。

「中九州横断道路」早期完成を願う女性の会（竹田市）

仲間に会えない〝さびしさ〟

コロナが広がり、仲間を集めての定例活動は難しかったので、副会長と2人で草取り、肥料やりをしました。そうはいっても、草は伸び、手におえず、事務所に相談し、加勢をしていただきました。

この様子だと今年後半の定例活動も出来ないでしょう。人と会えない希薄さを痛感し、不安になります。空いた時間を利用し、コロナの終息を祈念し、お世話になった方々へ感謝の気持ちを込めてマスクつくりをしています。活動自粛が続くと思いますが、道守活動はずっと続けていかねばと思います。コロナが終息した暁にはぜひ竹田へお越しください。

（会長　堀幸子）

57号線沿いのマツバギク

NPOさがのせきまちづくり協議会 関の鯛釣り唄・踊り保存会（大分市）

おもてなしの心はコロナに負けない

7月上旬『道の駅さがのせき（大分市佐賀関）』にてNPOと保存会の協力をいただき、15名で花植え活動を行いました。

渡辺会長の挨拶後、作業をスタート。国道沿いと建物沿いのフラワーポットに「日日草」を植えました。おもてなしの心はコロナに負けないぞ！『道の駅さがのせき』を通りかかった際は、ぜひお花もご覧ください！　お待ちしています。

（道の駅さがのせき　駅長　松尾島雄）

花植え終了後、全員集合!!

道の駅前で、花植え作業中

駐車場が広くなりました

道守大分会議（大分市）

協賛企業の横断幕でPR 協賛金は道路美化活動に活用！

2016年12月に、道守大分会議は道路愛護活動の実績が認められ、道路協力団体として九州地方整備局より指定を受け4年目を迎えました。

9月初旬、今年度も国道10号（1日平均7万台の通行量）の歩道橋において、収益活動の一環として企業・団体にご協賛いただき、横断幕を張り付けました。

横断幕には道路愛護啓発に加え、コロナ感染を防ぎ、健康づくり増進の願いを込め、環境にも優しい自転車通勤を促すこともテーマに掲げました。

協賛金は道路美化活動に活用できるため、掃除道具・清掃用品の調達など、活動の財源として大変役にたっています。

（事務局取材）

協賛金で道具を購入し、皆で完成させたおもてなし花壇！

大分短大園芸科の学生も大活躍

道路愛護と自転車通勤のすすめを掲載

道守みやざき会議

外出自粛や移動制限の中で活動

今年は新型コロナウィルス感染症の拡大により、道守活動が難しい状況です。外出自粛や移動制限など大変な最中、変わらず道守活動をして下さっている団体の取組は、地域の人々にとって宮崎の道や風景の良さを改めて感じる機会となっていると思います。今後も宮崎の自然の美しさが持続するよう、道守みやざき会議の皆さまと活動を続けていきたいと思います。

特定非営利活動法人 オープンガーデン サン・フラワー宮崎（宮崎市）

無理なく楽しく花のまちづくり

特定非営利活動法人オープンガーデンサンフラワー宮崎は、「花や緑が好き」という個人や団体で、各会員が、思い思いの庭作りを楽しんでおり、それを〝オープンガーデン〟として一般に公開もしています。

こうした自宅の庭づくりに加え、公共空間での花ボランティア活動も行っており、新型コロナ影響の中でしたが、4月と7月にデパート前2か所の花壇植栽を行いました。今回は街に来た人たちに、元気になってもらおうとビタミンカラーの黄色やオレンジ、赤など派手目のお花を選びました。植栽にはたくさんの会員の方たちに参加して頂き、マスクをしながらの作業は想像以上に息苦しく暑くて大変でしたが、「花を見て元気をもらっています」と道行く多くの人からのお言葉をいただき励みになりました。暑さに負けずコロナに負けず今後も花ボランティアに頑張っていきたいと思います。

（代表　新名れい子）

デパート前花壇

花植栽ボランティア

特定非営利活動法人ハートピアなんごう（日南市）

地域観光資源「ジャカランダ」賑わいの日を

私たちの道守活動は、国道220号線沿いに植栽している「ジャカランダ」の保全管理です。年に数回の除草・剪定・施肥を行ってきました。この活動を通じて、地域観光活動への寄与、そして環境保全活動にも一役買っていると思っております。

昨今、新型コロナウィルスが、どの業界でも影響を及ぼしておりますが、マスク着用の活動には暑さの限界があるので、フェイスガードに切り替え、休憩中はソーシャルディスタンスを保っております。

今年のジャカランダは綺麗に咲き誇りましたが、多くの方に見ていただく事が出来ず、残念に思いました。しかし、来年は多くの方に見ていただけるよう、そしてコロナ終息を願いつつ、一生懸命に取り組んで参ります。

再び地域に多くの人で賑わうその日のために。

（理事長　横山正）

除草活動できれいになりました

株式会社五幸建設（日向市）

「地域の方々と共に」という思いを込めて

建設業に携わる我々は、社会資本の建設や維持管理を行いながら、地域経済の一翼を担うとともに、災害時の応急対策や復旧などに努め、地域住民の安全を守る使命があると思います。その一端として、地域の方々が気持ちよく道路を利用できればという思いから、国道や地域の生活道路、道の駅都農周辺の美化活動に取り組んでいます。活動を通して、地域の方々からお礼の言葉や、労いの言葉を頂いた時には、自然と笑顔になれます。これからも、地域の方々と笑顔で触れ合える活動を行っていきたいと思います。

（工事部　飯干憲二）

国道10号もきれいに

道守活動「ご苦労さま」

生活道路も除草

道の駅都農付近のごみ拾い

のべおか道の駅株式会社（延岡市）

道に感謝し敬意を表する

延岡市内3つの道の駅（北川はゆま・北浦・北方よっちみろ屋）を運営する会社として平成29年元日に統合合併して「のべおか道の駅株式会社」が誕生しました。

「道の駅」という施設は一般の皆様以上に「道」から恩恵を受け、逆に「道」に支障が出た場合は、その影響を受けやすい特性があります。まさに我社は「道」によって生かされているといっても過言ではありません。

その「道」に感謝し敬意を表すため当社では平成29年誕生の年から月1回のペースで各道の駅のホームロード、国道10号線（道の駅北川はゆま）、国道388号線（道の駅北浦）、国道218号線（道の駅北方よっちみろ屋）を中心に道守活動を実施しております。1回あたりの平均参加者は10名弱と僅かですが、除草活動、清掃活動を継続的に行っています。

コロナ禍の中でも、感染症予防の観点から作業前事後の手洗いうがい・手指の消毒、マスクの着用、各作業者のソーシャルディスタンスに留意し活動を行っています。

今後とも「道の駅」をご利用のお客様が安全快適に通行できるように、また「道」へ感謝を込めて活動してまいります。

（取締役部長　脇坂光一）

道の駅北川はゆまでの清掃作業

道守かごしま会議

離島、津々浦々で活動、和を広げる

平成十六年に発足した「道守かごしま会議」は個人、ボランティア団体、企業を中心に現在八十三団体が加盟し、活動を行っています。

離島を含む県内津々浦々で、各団体が小規模ながらも地道に活動を続け、少しづつではありますが道守の輪を広げております。

神村学園（いちき串木野市）

全校生徒で「綺麗に安全に」

鹿児島県いちき串木野市にあります神村学園高等部は、日々の活動に加え年に1度、千人を超える全校生徒が、国道3号線の他、串木野駅・神村学園前駅・照島海岸に分かれて、校外の清掃活動を行っています。また、7月より開通いたしました、神村学園前駅の歩道橋も生徒会を中心に、生徒が安全に登下校できるよう8月に清掃いたしました。

毎日、多くの生徒が利用をする国道3号線や神村学園前駅では、地元の方たちも利用しています。この先何年も、綺麗に安全に利用できるように、今後も生徒会を中心に活動を継続していきたいと思います。

（生徒会役員　主任盛岡祐太郎）

鹿児島インターハイの広報活動をしながら清掃ボランティア

生徒会役員による清掃活動

瀬戸内町商工会女性部（大島郡）

南国の太陽浴びて咲き薫れ！花も緑も人までも！

奄美本島南部に位置する瀬戸内町は、大島海峡を望む「海の駅」までの歩道脇に街路樹が植えられています。50ｍの長さがあり、商工会女性部の要望で、花壇として使わせてもらい、季節ごとの花を植え人々の笑顔を誘っています。

赤、黄色、白と競って咲き出す花に、夏場の大変な水やり作業も楽しく変わります。色彩豊かなハッピィーロードにしていきたいです。

（部長　西久恵）

松葉ボタンと
きれいになった花壇

大福コンサルタント株式会社（鹿児島市）

空き缶回収や除草など地域貢献

大福コンサルタント㈱は、国の「ボランティア・サポート・プログラム」と、県の「ふるさとの道サポート事業」の一環として、会社周辺の国道225号線と県道217号線の沿道に散乱している空き缶などの回収や雑草の除去作業を行っています。

実施する度に、ゴミの量が少なくなってきているのを実感します。今後もきれいな道が続くよう継続した活動を行っていきたいと思います。

（代表取締役社長　福田真也）

ごみ拾いなど清掃作業

道守活動ご苦労さまでした

「みちづくしin北九州2020」

コロナ禍「密」をさけ、来年(2021年)秋に延期

――実行委員会、苦渋の決断

九州の道守さんが年1回集まり、親交を深める「みちづくしin北九州」は11月17、18日北九州で開催する予定で、準備を進めてきましたが、コロナウイルスの流行で、「三密」を避けるため、来年秋に延期することを実行委員会で決定しました。

全国的に広がった新型コロナの流行は、夏になって「第二波」ともみられる陽性者の増加が続きました。実行委員会としては、令和2年での北九州開催を目指して、会場確保、現地体験学習のコースづくり、プログラム、資料の作成などを行っていました。開催地の北橋北九州市長にも面談、協力のお願いをし、「歓迎」の言葉を頂き、了承と協力の約束を得ていました。

しかし開催地である福岡県、北九州市など北部九州での感染拡大は止まらず当局から「多人数のイベント」自粛要請もあり、また「みちづくし」大会を開くことによって感染リスクを高める可能性はないか、規模を縮小して少人数の開催、あるいは「オンライン開催」など多角的に検討しました。

また各県道守会議にアンケート、意見を聞きました。その結果、全県で「(開催を)希望しない」、の回答を得ました。理由として「早い判断が必要」「無理して開催せず、来年へ延期を」「高齢者が多く見送りを」など。なかには「25%希望、75%希望しない」(大分)との回答もありましたが、実行委員会としてはこうした意見を踏まえて「来年に延期」を決定、北九州市へも伝え了承を得ました。

来年(令和3年)の「みちづくし」の開催地は北九州市は変えず、日程、会場確保などは同市と改めて協議することとしました。詳細が決まり次第、道守各県会議に連絡します。

賛助会員の皆様

令和２年度 みちづくしについて

残暑厳しき折、皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じますと共に、日頃から道守活動には多大なご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、本年11月17日、18日に開催を予定しておりました「みちづくしin北九州2020」は、新型コロナウィルス感染拡大により、2021年10月に延期させていただくことになりました。何卒ご了承ください。次年度の開催について、詳細が決まり次第、再度ご案内を差し上げますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回の球磨川流域災害復旧には九州地方整備局が権限代行で実施することになりました。早期に事業が進められ、住民の方たちの生活が、早く元通りになることを願っています。

今後とも道守九州会議並びに道守活動にご理解いただきますよう、心からお願い申し上げます。

まだまだ酷暑の日々が続くことと存じますが、どうぞ、ご自愛の上お過ごしいただきますようお祈り申し上げます。

令和２年８月吉日

道守九州会議　代表世話人　樗木　武
みちづくしin北九州2020実行委員長　玉川　孝道

大島を訪れる人を出迎える花壇

島民の生活を支える大島大橋

わたしの好きな道

笑顔をつくる大島大橋の道

～長崎・県道52号～

私の好きな道は県道52号線です。この道には西海市の西海町と大島町を結ぶ全長1095メートルの大島大橋がかかっています。大島町には大島造船所があり毎日4000台の自動車がこの橋を行き来しています。私も、職場への通勤に毎日この橋を通っていますが、橋から見える海や山はとても綺麗で清々しい気持ちになります。

私は6年前から大島町のボランティア団体「環境美化を考える会」に入り道路の除草活動を行ってきました。大島大橋の袂もこれまでに何度も除草作業を行ってきました。草を刈って綺麗になった道を見るととても嬉しくなり、沢山の人に見てもらいたいなと思います。「環境美化を考える会」に入る前は、道路を清掃する人がいることすら知らず綺麗な道が当たり前のことのように思っていましたが、ボランティアをしてはじめて道は綺麗にして守っていくものだということを知りました。

ボランティア活動の開始と同時に「道守」を知りました。最初の頃は何のことだかよくわかりませんでしたが、道守を知って道について考えるようになりました。私が産まれた頃には道も広く綺麗で自動車でどこにでも行くことができていました。しかしその前は道路が整備されておらず道幅も狭かったと聞いています。道幅か広がった道や、新しく出来た道、そのまま残っている道などさまざまな道を見ると人々の生活や苦労が見えてとても面白いです。今、当たり前のように道があることに感謝しています。

私は現在25歳で、私と同じ年代の人にはまだまだ道にゴミを捨てる人も多いと思います。タバコの吸い殻やペットボトル、ゴミ袋などのゴミを大島町でもよく拾います。道だけに限らずゴミを捨ててしまうと景観が悪くなり、良い気持ちはしません。捨てられたゴミは自然に消えることはないので誰かが拾わないとずっと残ってしまいます。若い自分がボランティア活動をすることで、同じ年代の人たちが少しでもゴミを捨てずに環境について考えてもらえたらと思っています。

私の好きな道、大島大橋、大島町をこれからも綺麗に守り、大島に住んでいる方、働いている方、遊びに来る方をずっと笑顔にしたいです。

■ プロフィール
谷口 雅樹（たにぐち・まさき）
環境美化を考える会所属。「元気やさい雅」の責任者で西海市大島町にて無農薬・無化学肥料で野菜を育て販売。清掃作業で発生した刈草や落ち葉、家庭から出た生ゴミを「EM」で発酵して肥料化する等のこだわった土づくりにより、美味しく栄養価の高い野菜づくりを行っている。

海外道事情

スペイン

ビルバオ市の都市改造
―製鉄のまちから文化のまちへ―

街の発展、機能更新などのため、時に都市の大改造が必要。その例に奇跡の再生といわれるビルバオを紹介しよう。

ビルバオは、大西洋に面するスペイン北部の都市。東西をピレネー、カンタブリア山脈に挟まれ、背後もバスク山脈に囲まれるが、バスク地方の玄関口で、サンティアゴ巡礼の路の一つ「北の道」の出発点でもある。千人以上の日本人が住み、我が国からの訪問も多い。ネルビオン川が流れ、その河口から内陸に向かう川沿い20㎞強が一つの都市圏（115万人、362㎢）である。ビルバオ（35万人）はその中心で、製鉄業、金融業、港湾等で栄えた。

ビルバオの大規模な都市改造の理由は二つ。一つは工業都市の構造変化である。14世紀、商業のまちとして右岸が発達。その後、スペイン内戦（1936～39）などの紆余曲折はあるが、産業革命を経て、近くの鉱山で採れる鉄鉱石の輸出と、製鉄業等中心の工業都市として左岸が開発され繁栄した。しかし、1980年代、古い工業都市の例にもれず衰退し、人口も大きく落ち込んだ。二つ目は、1983年に街を襲ったネルビオン川の大水害である。手元に資料がなく実態は不明。しかし、両岸に住居や工場が張り付き、川が屈曲して街の中央を流れることから、大被害を受けたことは容易に推察できる。

これらを機に、1990年代から2000年代にかけて都市改造が行われた。その戦略プランをみると、バスク自治州の中心として国際的役割を担い、多様、創造、文化などを基本方針とする都市と都市圏の再生である。近隣に超近代的な新空港ビルを整備し、古いドックを郊外の河口に移し、川の環境浄化を図り、歴史遺産を生かしつつ旧市街の環境改善を図り、未来志向といえる工場跡地での公共施設の整備が打ち出された。そうした中、注目する点が二つある。

一つは、産業・経済重視から文化のまちに大きく舵を切ったことである。文化では経済効果は望めないとの批判を受けながらも、その象徴として、グッゲンハイム美術館の誘致があった。写真に見るように、曲線を多用し、銀色に輝く建物は、世界で見て最近の最も重要な建物と評され、現代美術が展示されている。開業後5年間の年平均入場者数は100万人を超え、そのうち45％が国外からである。また、世界共通言語の芸術に関する市民教育に力を入れたことで関心も高く、好評価である。

いま一つは、都市の基盤である交通インフラの徹底した改善である。都市圏を見据え、従来からの鉄道に加えて、地下鉄（1995～）、路面電車（芝生軌道LRT、2002～）を導入し、移動性とアクセス性を重視し、インフラ一覧に示す様々な街路と交通の改善があった。特に、広幅員歩道を持つトランジットモール、セミトランジットモール、フルモール、LRTは、都心から車交通を減らし、人が楽しむ、環境にやさしい街づくりであり、それらが公共交通と徒歩による都市観光、文化のまちづくりに寄与している。

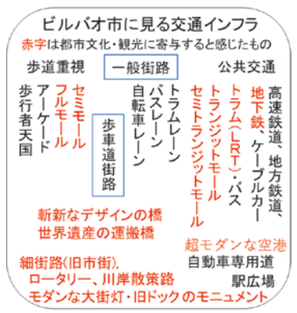
なお、水害は、川沿いに散策路や路面電車による広いオープンスペースを設け、旧ドックはモニュメントにして対処している。

また、船の往来に配慮した世界最古の運搬橋が残る。見るだけでない。今も市民の足であり、45m上空は観光用歩道橋。活用しつつ末長く守る世界遺産である。

チタニウムによる革新的デザインのグッゲンハイム美術館(1997)

芝生軌道を走るLRT

広幅員歩道、バス・タクシーのトランジットモール



世界最古の運搬橋のビスカヤ橋（長さ164m）、(1893. 世界遺産)

樗木（もしゃき） 武（たけし）
九州大学名誉教授
マスター都市プランナー

道守 人物伝

花いっぱいでおもてなし！たくさんの人をお迎えします！

一般財団法人みやざき公園協会 前田 高志さん（36歳）

青島まるごとフラワーフェスタは、毎年3月から5月にかけて、青島参道商店街など、沿道を中心に青島地域を色鮮やかな花で装飾する取り組みです。平成20年3月から始まり、今年で14回目を迎えようとしています。

当初は、青島再勢プロジェクトの取り組みとして、宮崎の観光地である青島を、花いっぱいのおもてなしでお出迎えし、PRしよう、という思いから「ぐるっと青島まるごとフラワーフェスタ」がスタートしました。

現在では、地域住民、関係者やその家族を中心としたボランティア約60名の手によって花が植えられ、観光客で賑わう青島に、活気と彩りを加えてくれる春のイベントとなっています。

令和元年5月に国土交通省のガーデンツーリズム登録制度に宮交ボタニックガーデンを含む11の公園や施設が選定されました。これは青島地域の活動も含め、これまで宮崎市内でボランティアを頑張ってこられた地域の方々の献身的な活動の結果だと思います。今後もこれまでの活動を継続して取り組み、宮崎の代表的な観光地である青島を盛り上げていきたいと思っています。

また、青島だけでなく宮崎県内の多彩なガーデンや他のエリアの活動と連携し、情報交換を行うことで、宮崎県全域で花いっぱいによるおもてなしが広がっていくように、何よりも住んでいる地域の方たちが楽しく継続できるようこれからも頑張っていきたいです。

道守たちのトピックス

ふくおかフィナンシャルグループ文化芸術財団からふるさと振興基金をいただきました！

ふくおかフィナンシャルグループ文化芸術財団のふるさと振興基金は、福岡県・熊本県・長崎県で文化活動を通して地域に貢献している団体または個人へ助成することにより、地域文化の発展・向上・振興に寄与することを目的としています。

この度、道守九州会議を、地域に密着し、地域に貢献する文化活動を行っている団体として認定、助成金を交付していただきました。

交付式は、9月2日福岡銀行博多駅東支店で、ふくおかフィナンシャルグループ執行役員福岡銀行取締役常務の立花秀樹様（写真左）より樗木代表に目録と盾が授与されました。

福岡銀行取締役常務の立花様は、今年の3月まで北九州で勤務されていたとかで、みちづくしを北九州市で開催することをご紹介すると、とても喜んでいらっしゃいました。

みちづくし開催時にはぜひともご参加いただき、道守さんたちの熱い思いを感じていただければと願っています。

道守と日本風景街道の整備局窓口の一本化

今年度より日本風景街道の担当が道路計画第二課より道路管理課に移りました。

これにより道守と日本風景街道は、道路情報管理官、道路管理課の体制で担当させていただくことになります。

担当窓口を一本化したことにより、道守と日本風景街道のよりよい協力・支援関係を築いていければと思います。

道守通信 編集後記

◎7月3日から7日にかけて九州各地で観測史上過去最高となる記録的な豪雨で被災された皆様、台風9号、10号でも被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。

7月豪雨で球磨川流域の人吉市、球磨村、八代市で甚大な被害を受け、日田市の道路陥没、大牟田市や久留米市の道路冠水など各地で被害を受けました。球磨川流域では現在も復旧活動が進められており、1日も早い復旧と通常の暮らしに戻るよう心から祈るばかりです。

◎秋号は、新任の道路部長のインタビューや樗木代表世話人からのエールを掲載し、各県でコロナに負けずに活動されている団体を紹介しました。他にもたくさんの道守さん達が「三密」回避を心掛けながら、少しでも美しい道やまちを目指して日々活動されていることはお互いの励みになります。早くコロナが収束することを願っていきましょう。

◎今年度のみちづくしは、残念ながら来年に延期になりました。北九州市の道路サポーターの皆さんは、多くの道守さん達をお迎えできると楽しみにされていました。来年こそは北九州市でお目にかかり、2年越しの思いを語り合い、充実した楽しいみちづくし大会にしたいと考えています。コロナに負けず、元気な活動で地域が盛り上がりますように!!

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様（団体・企業）～

※順不同

（一社）九州地域づくり協会	九州国道協会	九州電力㈱
（一社）プレストレストコンクリート建設業協会　九州支部	（一社）日本道路建設業協会　九州支部	福岡市道路利用者会議
（一社）福岡県建設業協会	福岡県道路協会	㈱大林組　九州支店
（一社）佐賀県建設業協会	佐賀県道路愛護協会	鹿島建設㈱　九州支店
（一社）長崎県建設業協会	長崎県道路協会	建設サービス㈱
（一社）熊本県建設業協会	熊本県道路利用者協会	清水建設㈱　九州支店
（一社）大分県建設業協会	大分県道路利用者会議	大成建設㈱　九州支店
（一社）宮崎県建設業協会	宮崎県道路利用者協議会	長幸建設㈱
（一社）鹿児島県建設業協会	鹿児島県道路利用者協議会	西日本高速道路㈱九州支社
日新興業㈱	九州技術支援協議会	㈱九州建設マネジメントセンター
㈱熊谷組 九州支店	西日本高速道路エンジニアリング九州㈱	西日本高速道路メンテナンス九州㈱
阪神高速技術㈱	サンコーコンサルタント㈱　九州支社	みちを考える会
朝日開発コンサルタンツ㈱	旭建設㈱	朝日工業㈱
朝日テクノ㈱	㈱アジア技術コンサルタンツ	㈱アップス
㈱安部日鋼工業　九州支店	㈱安藤・間　九州支店	烏城塗装工業㈱
㈱エスイー　九州支店	NTTインフラネット㈱　福岡支店	NTTインフラネット㈱　熊本支店
NTTインフラネット㈱　鹿児島支店	扇精光コンサルタンツ㈱	大分瓦斯㈱
大分県建設業協会　大分支部	大分県道路舗装協会	大分交通㈱
㈱大島造船所　九州営業所	㈱岡﨑組　勝盛会	㈱荻島組
㈱オリエンタルコンサルタンツ　九州支店	鹿児島土木設計㈱	㈱片平新日本技研　福岡支店
上内電気㈱	川田建設㈱　九州支店	㈱カンドー　九州支店
九建設計㈱	㈱九州開発エンジニヤリング	九州環境管理㈱
九州建設コンサルタント㈱	九州地区道路利用者会議	九州みちの会
協同エンジニアリング㈱	㈱橋梁コンサルタント　西日本支社	㈱建設環境研究所　九州支社
㈱建設技術研究所　九州支社	㈱建設技術コンサルタンツ	㈱建設技術センター
（一社）建設コンサルタンツ協会　九州支部	㈱鴻池組　九州支店	コーアツ工業㈱
㈱国土開発コンサルタント	㈱コバルト技建	㈱駒井ハルテック　九州営業所
㈱西海建設	西部ガス㈱	（一社）佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
㈱サタコンサルタンツ	㈱ジャストエンジニアリング	昭和コンクリート工業㈱　九州支店
新成建設㈱	㈱新日本技術コンサルタント	㈱親和コンサルタント
㈱末宗組	㈱西部技建コンサルタント	㈱センコー企画
㈱綜合技術コンサルタント　九州支店	そうじの会（多久の未来を創る会）	㈲測量企画センター
㈱そよかぜ館（「道の駅大和」）	大日本コンサルタント㈱　九州支社	大福コンサルタント㈱
太陽技術コンサルタント㈱	㈱髙山組	瀧上工業㈱
宅島建設㈱	谷川建設工業㈱	㈱玉の湯
㈱地域科学研究所	中央コンサルタンツ㈱　福岡支店	中央復建コンサルタンツ㈱
㈱長大　福岡支社	㈱長大テック　福岡支店	通信土木コンサルタント㈱　九州支店
㈱東亜コンサルタント	東急建設㈱　九州支店	㈱東京建設コンサルタント　九州支社
㈱東豊開発コンサルタント	東洋技術㈱	利光建設工業㈱
戸田建設㈱　九州支店	㈱友岡組	㈱友岡建設
㈱名村造船所　福岡営業所	南生建設㈱	㈱西九州道路
西日本技術開発㈱	西日本建技㈱	西日本コンサルタント㈱
西日本コントラクト㈱	㈱日建コンサルタント	日鉄鉱コンサルタント㈱　福岡支店
日本乾溜工業㈱	日本軌道工業㈱	日本工営㈱　福岡支店
（一財）日本造園修景協会　大分県支部	日本地研㈱	㈱野村建設
葉隠会道守部会	㈱萩原技研	パシフィックコンサルタンツ㈱　九州支社
㈱ピーエス三菱	㈱日髙本店	福地建設㈱
㈱福山コンサルタント	㈱冨士設計	㈱富士ピー・エス
㈱ぶぜん街づくり会社（「道の駅」豊前おこしかけ）	復建調査設計㈱　九州支社	前田建設工業㈱　九州支店
松尾建設㈱	松本技術コンサルタント㈱	㈱丸福建設
㈱水野建設コンサルタント	㈲道の駅みえ	宮崎空港ビル㈱
㈱宮崎産業開発	宮地エンジニアリング㈱　福岡営業所	村本建設㈱　九州支店
八千代エンジニヤリング㈱　九州支店	㈱ヤマウ	㈱ヤマックス
㈱横河ブリッジ　福岡営業所	龍南建設㈱	
個人会員70名		

発行「道守九州会議」
広報誌「道守通信」秋号
令和2年10月発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室（九州地方整備局道路管理課内）
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331㈹　FAX.092-476-3481

■（一社）九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189　FAX.092-414-0767

道守HP　http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/　e-mail　michi-kima@kyugikyo.or.jp